

令和5年度 第2回 裾野市中小企業等振興推進会議 議事録

日時 令和5年11月10日(金)

10:00~11:40

会場 裾野市役所5階 第一委員会室

出席委員:8名(西島隆彦、中川好大、渡邊昌志、堀口綾子、荻島昭章、近藤眞臣、岩崎健司、福澤義明)

欠席委員:4名(土屋浩三、石黒貴正、室伏ゆり江、和田智之)

議長:西島隆彦委員(土屋議長欠席のため西島副議長が議長代行)

<配布資料>

別添のとおり

<会議内容>

1. 開会

2. 議長挨拶

・円滑な会議の協力をお願いしたい。

3. 議事

(1) 中小企業等振興に係る各種施策の集約化について

① 裾野市中小企業等振興施策(冊子のイメージ)について【資料1】

・事務局説明

・質疑

(A委員)

前回の会議は、要望に対する回答だった。今回は、その回答に対する具体的な取り組みの仕組みづくりをしていくという認識でよいか。

(事務局)

前回の会議で、要望書の回答をした次の段階として、各機関がいるこの会議で各施策について情報共有をしたい旨提案し、今年度は冊子を作成する予定となっている。

(A委員)

具体的な施策を考える前段階として、参考的なものを作成するのか。

(事務局)

そのとおり。

(A委員)

各機関の各施策窓口を整理し、まとめていくのが今年か。任期2年で今年度が最後のため、早めに仕組みづくりまでしてもらえればと思う。

(事務局)

承知した。ロゴマークの使用についてはいかがか。

(B委員)

団体ごとサイズ等の使用ルールがあるため個別に確認をした方が良い。

(A委員)

そもそもロゴを使用する理由は？

(事務局)

あくまで案だが、冊子に施策を載せる予定の団体が分かるように、ロゴを載せている。

② 中小企業等の振興施策の冊子作成のための施策調査(調査結果)について

【資料2】

● 施策内容について、資料2について所管ごと説明

I. 市の施策説明(事務局)

II. 商工会の施策説明(C委員)

- 以下、資料に記載のない補足説明

(C委員)

・P12「2.小規模事業者持続化補助金」:50万円、上限200万円。

店舗改装、広告掲載、展示会出展費用などに補助。

・P16「2.小規模企業経営力向上事業費補助金」:上限50万円。開

発費、機械装置費、外注費などに補助。

III. 静岡県中小企業団体中央会の施策説明(D委員)

- 以下、資料に記載のない補足説明

(D委員)

・P14「7.外国人技能実習生受入れ組合の設立支援」:今月中を目途に新制度となる。現時点で記載している内容は旧制度のため説明は割愛させていただく。

IV. 金融機関の施策説明(B委員)

- 以下、資料に記載のない補足説明
(B委員)

- ・他行の内容含め、多岐に渡り多いため説明を割愛させていただく。
- ・調査段階での回答のため、カテゴリーは整合を図る必要がある。

● 質疑

(A委員)

支援施策はそれなりに項目があるという印象だが、それをどう PR して、活用してもらうのか。施策は現行制度のためより活用してもらえるよう、冊子は冊子で良いと思うが、広く周知してもらいたい。

(E委員)

冊子の内容は毎年更新をしていくのか。

(事務局)

必要に応じて、都度見直しをしていきたい。

(E委員)

市か商工会か分からないが積極的な PR などを行うワンストップ的な担当部署を設置する必要があると考える。多少の違いはあるだろうが、各施策はどの自治体でも似たり寄ったりな中で、当市では活用がされているのか。中小企業の立場からすると知らない施策もあり、情報発信は常にされているのか。他市町と比べ、裾野で事業を行うと情報が入りやすく仕事がしやすいと感じられる環境づくりが必要と考える。

例えば、そのブランドもどこで買えるか分からず、認定をただけで PR が出来ていないのではないかと。積極的に PR していくための仕組みづくりを考え、具体的な行動となれば良い。市は補助金を出しているが、果たしてそれだけで良いのか。認定後の具体的な施策を当会議で話し合うことが出来れば、より良いため、当会議の活用を検討いただきたい。

(F委員)

冊子の必要性は理解できるが、どこまで配るのか。中小企業全てに配るのか。制度を必要としている人に情報が届くような方法を考えないと、冊子を作っただけで終わりになってしまう。また、ウェブ版も作成してほしい。

例えば、飲食店で人材不足だから外国人を雇おうと考えた場合、人によっては商工会と繋がりがあって相談する方法や雇うまでの流れが分かるが、そうではない人がこの冊子から支援策を見つけようとしても分かりにくいと感じるため、内容は分かりやすくかみ砕いてほしい。読む気がしない。冊子

は無理だとしても、せめてウェブ版は「〇〇にお困りではないですか？」のような入口から、各施策へ分かりやすく誘導できるようにしてはどうか。

(事務局)

冊子を作って終わりではなく、その後の展開方法は考えていきたい。

(B委員)

金融機関を通じて、お客様に積極的に広めていきたい。ウェブ版について、事業者がどういう問題を抱えているのか、逆にどんな課題が多いのかをフィードバックしてもらえると、それに適したメニューを展開できるため、双方向の情報共有ができることより良いと思うので検討いただきたい。

(G委員)

所管機関へ直接聞く前に、ネット等で調べられるように冊子の中で施策ごとに該当 URL を記載してほしい。そうすれば、事前に調べた上で分からない部分を所管機関へ聞くことができる。

(事務局)

今後のスケジュールについて、冊子の内容は各委員の意見を受け検討する。年内は作業期間としてお時間をいただき、年明け1月中に各施策の所管機関へ展開し内容の確認をしていただく予定。2月に内容を仕上げ、委員の皆様へ展開し、第3回の会議を経て完成させたい。

(2)情報交換

(F委員)

飲食店は食材原価の高騰も課題だが、1番の課題は人材不足。施策の中でも人材不足は重要になってくると思うため、力を入れてもらいたい。外国人の雇用も興味があり、裾野には ITS 協同組合があるため、それは強みでアピールになると思う。外国人の雇用はハードルが高いと思っていたが、ITS に聞いてみるとそうでもないかなと感じたこともあり、そういった情報も大切だろう。

(C委員)

ITS 協同組合は、ベトナム人が窓口で商工会青年部も入っていて積極的に活動している。外国人の方はよく働くと言っていて、是非 ITS のことを知ってもらいたく、商工会を通して話をしてもらえたらと思う。

(E委員)

補助金の案内は嬉しいが、他にも悩んでいることは多く、広報することも中小企業では大変な中で、裾野市において市役所が一番広報のパイプを持っていると思う。積極的に市が情報を流してくれるだけでも違いうだろう。中小企業が単

独でやろうと思っても難しいため、市での積極的な情報発信を検討してもらいたい。また、中小企業の窓口もワンストップにならないか。冊子も、分かりやすくしてもらいたい。

過去に熱海市で、椿油のPRを市長が責任を持って行っている事例がある。地元産品を市の担当者が営業に周っていて、それが無理でも、そういった意識を持つことが大切で、市と市民が近づくことで良い循環が生まれるかもしれない。商工会としても、同様に考えていきたい。

(事務局)

各施策の情報発信について、要望をいただいた中で、その中の4つの柱が当会議で協議をしていく内容だと考えている。その1つである「情報受発信力の強化」について、施策の取りまとめをしている。分かりやすくという意見に対しては、現時点では調査を取りまとめただけの段階のため、内容については協議をしながら進めていきたい。また、すそのブランドについても意見があったが、観光協会と協力してイベントでの出店販売などができると思う。

(G委員)

裾野から車で他市町へ働きに出る人が多く、市内に留まる人が少ない印象。市内に働ける企業、働きたいと思うが少ないのではないかと。企業誘致をしても人口は増えないと思う。賑わいが少ない。

(D委員)

国の施策に高度化事業がある。土地の確保で、地目の変更ができ、高度化を活用して土地の開発まで可能。活用いただきたいが、事業所数がある程度まとまっている必要性や、計画自体もスパンがあって結果にすぐ結びつかないといったこともあるため、土地確保の切り口として高度化の制度があると認識してもらいたい。

(B委員)

移住では、県東部は注目されているエリア。人口増加のためには企業誘致と併せ定住人口の増加も進んでいけばと思う。金融機関として裾野市には可能性を感じている。行政の協力を得ながら、安定的な物件の供給をもらいたい。

(A委員)

商売をする上で、中小企業にとって人材不足と事業継承は皆が抱えている問題だと思う。企業努力も必要だろう。

市街化区域に対し、未利用地が多過ぎる。分譲地が出来ればすぐ家が建つ。行政主導で、市街化区域はやるべき。地権者交渉は、民地の地権者同士で話を

しても必ずトラブルになるため、行政が間に入ってもらわないと解決していかない。しかしながら市の建設課は、地域で地権者をまとめてきたら相談に乗るというスタンス。市としてその考えを改めてもらわないと進んでいかないだろう。決して、行政だけでやってほしいというわけではなく、市民や地権者と協力して分譲や企業誘致を進めていけたらと思う。

(3)その他

・特になし

4. 連絡事項

・次回会議は、2月か3月の開催を予定

5. 閉会